

女川原発再稼働ストップ県民集会予定される

3月22日午後1時より仙台市役所前市民広場で

女川原発再稼働を許さないみやぎアクション・原発問題住民運動宮城県民センターなどの呼びかけにより、3月22日(日)午後、仙台市役所前市民広場で、女川原発再稼働を許さない「さようなら原発みやぎ県民大集会」が開催されます。NPOきらきら発電も集会の賛同団体となり、ブース参加を決めました。



原子力規制委員会は今年2月にも女川原発2号機の新規性基準適合との審査結果を正式決定すると見込まれています。東北電力は2020年度後半以降の再稼働をめざしています。再稼働すると、福島型原発型(沸騰水型)の再稼働トップバッターとなります。東日本大震災の震源地に最も近くにあり、1千か所以上のひび割れを起こした女川原発が本当に安全なのか、不安をぬぐい切れません。おりしも、政府地震調査委員会が「宮城県沖、30年以内M7・4の地震発生確率60%」と発表しました。原発事故の再発を怖れながら生活する日々がやってくることなど、想像すらしたくありません。原発再稼働ストップのためみんなの力を合わせて、市民の意思をアピールしましょう。

当日正午より「きらきらブース」で「再エネ実験」を披露します！

きらきら発電・市民共同発電所の役員会は「さようなら原発みやぎ県民大集会」で「ブース」を借りて「再エネ理科実験コーナー」を設置します。「発電の原理を知るコーナー」「自転車発電で目玉焼き作り」「空気圧発電体験」「太陽光発電ベースロード電源化への挑戦」など、各種の実験を体験してもらう予定です。3月22日正午より出展を開始し、多くの方の来場をお待ちしています。

仙台PS操業差止訴訟の学習会開かる

1月25日(土)仙台市戦災復興記念館で「仙台港の石炭火力発電問題を考える公開学習会」が開催され、84名が集まりました。報告者の一人水戸部秀利氏(NPOきらきら発電理事長)は、「PS操業により、仙台市蒲生・多賀城市・七ヶ浜町では、SO2・NO2・PM2.5が増加。この影響で多賀城市では人口10万人対比2.16人死亡者が増えると予想される」と報告。「電気は東京に、お金は関西に、煙は宮城にというこんな理不尽を許していいか！司法に正義を期待したい」とまとめました。続いて原告団長の長谷川公一氏(東北大学環境社会学教授)が「訴訟開始後石炭火力50案件中13件が計画中止・変更になった。また神戸や横須賀でも裁判が始まった。そして経産省が11.25万kw以下の小型石炭火力を事実上禁止にした。このような成果があがっている。日本から石炭火力がなくなるまで、勝利を信じて頑張ろう」と訴えました。

NPOきらきら発電・市民共同発電所

第6回定期総会のご案内

NPOきらきら発電の2020年度定期総会のご案内をいたします。会員・準会員の皆様、ご出席、よろしくお願いいたします。
日時 = 4月29日(水)午後1時半~4時
場所 = 仙台市市民活動サポートセンター
講演 東松島みらいとし機構渥美裕介氏
本紙裏面に当日の議題を紹介しています。

きらきら発電市民共同発電所ニュース

2020年3月号 第63号
〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12
電話・FAX 022(379)3777
HP kirakirahatuden.com/
Eメール hirohata3777@outlook.jp

再生エネ普及に活気

原発ゼロ社会へ

赤旗

宮城

宮城県の美里町役場庁舎に「原子力に依存しない社会を」の横断幕が掲げられています。避難計画の策定を国から求められる原発30キロ圏に入ります。

市民が共同で

美里町議会は女川原発再稼働反対の意見書を、2019年12月、12年3月に可決。19年の提出者である前原吉宏町議(無所属)は「事故は起こしてはいけない。住民のその思いが強いということだ」と訴えます。意見書は「技術は未完成であり危険」として「国民の命、安心安全な生活と故郷を守るため再稼働を行わない」よう求めています。

再生可能エネルギーを広く普及させよう、県内での市民による取り組みが活気づいています。

NPO法人「きらきら発電・市民共同発電所」は、15年に仙台市内で太陽光発電を始めました。5号機まで増設し、年間合計出力は35万kw時。施工は県内の中小企業が担いました。会員は約200人にのぼり、無利子貸し付けは約7500万円集まりました。

再生可能エネルギーは「地球温暖化防止に役立つ」として「国民の命、安心安全な生活と故郷を守るため再稼働を行わない」よう求めています。

「原発ゼロに進むことは、再生可能エネルギー普及や原発廃炉など雇用、産業を生み出し、希望ある未来をひらく」。こう述べるのは、原発問題住民運動宮城県連絡センター世話人の中嶋廉氏。原発の「安全対策」は住民の被ばくや環境汚染を前提にしたものであり、

再稼働を拒む東北電力は18年12月、太陽光・風力発電の一時停止を求め「出力制御」を行う可能性があると発表。供給増加で需給バランスが崩

太陽光発電の収益を原資に給付型奨学金を実現したが、女川町のNPO法人「おながわ・市民共同発電所」は、15年に仙台市内で太陽光発電を始めました。5号機まで増設し、年間合計出力は35万kw時。施工は県内の中小企業が担いました。会員は約200人にのぼり、無利子貸し付けは約7500万円集まりました。

奨学金を支給

再稼働を拒む東北電力は18年12月、太陽光・風力発電の一時停止を求め「出力制御」を行う可能性があると発表。供給増加で需給バランスが崩

「再稼働中止こそ県民の安全を守る確実な道」と世論を盛り上げることが大切だと訴えます。



保育園の屋根に設置された太陽光パネル(NPO法人「きらきら発電・市民共同発電所」提供)

北海道・東北のページ



第1号の大六天発電所前に立つ松木さん(左)と高野さん
=宮城県女川町高白浜

太陽光売電収入で奨学金

河北 宮城・女川のNPO

名称は「おひさま奨学金」。「町に降り注ぐ太陽の恵みを若い人たちに」との願いを込めた。今月初めて、町の奨学金の貸与を受ける大学生ら16人に1人2万円を届けた。「当初の思いをやっと形にするのができた」。NPO理事長の松木卓さん(81)は胸をなで下ろす。

かつて町中心部でドラッグストアを経営し、東日本大震災で被災した。店舗は震災前に閉じていたが、津波をかぶった自分の土地を町が買い上げたことで手元に現金が残った。旧知の仲だった2人は16年12月、仲間と共に売電収入を手にした「子どもたちの奨学金制度を作ろう」とNPOを設立した。

今月初給付「若者に自然の恵み」

宮城県女川町のNPO法人「おながわ・市民共同発電所」が太陽光発電の売電収入を原資にした奨学金の給付を始めた。町内には東北電力女川原発があり、町は半世紀近く原発と共存してきた。原発城下町での挑戦に町内外の300人近くが共鳴し、再生可能エネルギーと未来を担う若者に思いを託す。

おながわ・市民共同発電所 宮城県女川町内2カ所に発電設備がある。高白浜地区の大六天発電所(出力7.9MW)は2018年2月に売電を開始。浦宿地区の方石浦発電所(同90.7MW)は同10月に発電を始めた。年間400万円の収入を見込む。

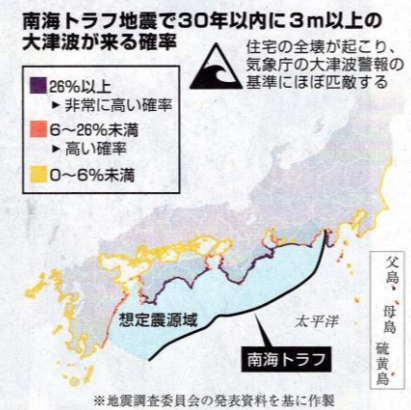
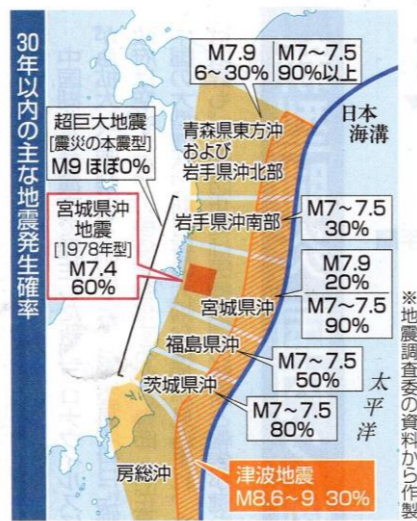
原発の利害超え市民協力

有志から出資や寄付を募る一方、町内の企業から約1300平方メートルの土地を無償で借り受けるなどして発電所の完成にこぎ着けた。これまでに費やした資金は約4000万円に上る。

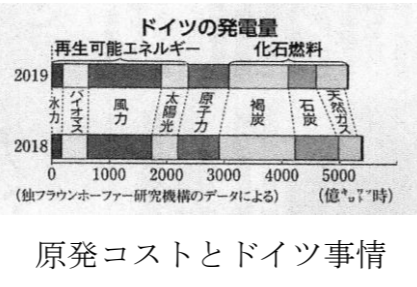
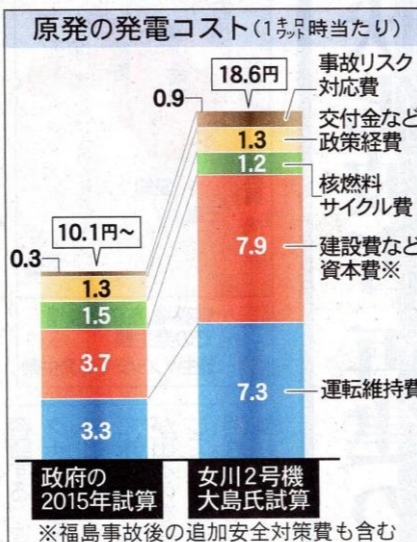
太陽光発電の実践は原発の存在意義そのものに触れる。町内に原発の利害関係者は多い。松木さんたちは当初、活動の広がりには限界があると思っていたが、法人の役員は現在7人。原発推進派も反対派も名前を連ね、党派を超えて前に進む体制ができた。

松木さんは「それぞれに思いはあるのだろうが、取り組みをあえて原発に結び付けなかった」と話し、「若い人たちに町への愛着を持ってもらうきっかけにしたい」と奨学金制度の持続に期待と決意を込めた。

河北新報記事紹介



1月24日地震調査委員会



原発再稼働の東北電力とさよならし、電力小売会社に電気を売ります

去年はパルシステムと、今年はみんな電力と契約

年内にも原発を再稼働させようとする東北電力。そんな東北電力も、関東地方に自然エネ100%の電気を売っています。要するに「原発由来のきたない電気は東北で売る」という経営方針です。

こんな地元を見捨てる電力会社に「きらきら発電のきれいな電気を売る」ことはしたくありません。そんな気持ちで「自然エネルギー由来の電気をできるだけ各家庭に届けたい」と努力されている電気小売業者に、きらきら発電の電力を売ることが今年の総会で確認しました。そして宮城県内で各家庭相手に電力を売っているみやぎ生協とあいコープに相談。みやぎ生協は自分の発電したものを売る方針ということで、きらきら発電の電気は買いませんとの返事。そこであいコープ経由で電気元売会社のパルシステムに相談。第1号機の井土浜発電の電力を買っていただくことにしました。昨年6月のことです。売電を開始したら、東京に住むパルシステムの会員さんから「きらきら発電の平和を愛する考えが、私の気持ちにピッタリ」というお手紙をいただき、さっそくきらきら発電の会員になっていただきました。

今年もさらに買電先を広げます。パルシステムと同じ関東に本社を持つ「みんな電力」との話が進み、本年4月より売電開始となります。わたり4号機が対象です。5号機多賀城伝上山発電所の電気も売り先を探したいと考えます。皆様、情報がありましたら、教えてください。

売電収益の還元先をみんなで考えよう!

定款には「高齢化社会への対応」と記載していますが…!?

きらきら発電は毎年多くの方々から寄付金のご協力をいただき(2019年度は14名の方から79万円のご協力)、おかげで赤字決算の発電部門を5年間カバーしてもらいました。そしていよいよ発電部門も、6年目の2020年度に黒字が出る予定です。そして来期以降も黒字は続く見通しです。その黒字を利用して新しい発電所(小水力発電)を建設したいと考えていますが、NPOおながわ市民共同発電所の「奨学金支給」のような「社会還元型」の活用も検討したいと考えています。きらきら発電の定款にはそのような趣旨で「高齢化社会への対応」という文言を入れていますが、今年1年間、皆さんと一緒に活用方法の具体化を検討することとします。どんなご意見でも結構です。どしどしご意見をお寄せください。なお2020年度のどこかで、会員が参加して「ああでもない、こうでもない」と意見を出し合う場を作りたいと思っています。お互いの夢を語り合ひましょう。

基金返済を今年も500万円実施します

小水力発電所建設に協力できる方は、返済据え置きも可

10年間お借りする予定の建設基金を昨年より返済開始しました。今年も500万円を予定しています。対象は2016年7月より2017年4月にご協力くださった20名です。本年6月頃に通知をさしあげます。まだ返済しなくてもよいとお考えの方はそのまま据え置きで構いません。また今年建設予定の金山小水力発電所の建設資金に回してよいという方はその旨記載しご返事ください。